

第 22 回かがわ「里海」づくり協議会を開催しました

日時：令和 8 年 7 月 21 日（火）10：00～

場所：香川県社会福祉総合センター 7 階 第 1 中会議室

内容：1 かがわ「里海」づくり協議会について

2 香川県からの報告

- ・令和 7 年度の取り組み実績と令和 8 年度の予定について
- ・オリーブ新漬け廃水の新たな脱色方法について

3 アドバイザーによる講演

- ・里海づくりに関する最近の動き

4 構成団体・機関による取り組みの紹介

- ・海面清掃兼油回収船「美讃」について
- ・環境省が推進する令和の里海づくり

はじめに、事務局から令和 7 年度の取り組み実績と令和 8 年度の予定についての報告を行いました。

次に、環境保健研究センターから、オリーブ新漬け廃水の新たな脱色方法について説明がありました。危険物や劇物を使用せず、クエン酸とピロ亜硫酸ナトリウムを用いて廃水の脱色と中和を行うものです。安全性が高く、簡便かつ低コストで実施できる方法であり、実証試験によって有効性が確認されました。

続いて、アドバイザーの松田先生から国内外における里海づくりの最近の動きについてご講演いただきました。令和の里海づくりモデル事業をはじめ、青森県などの取り組みや、三重県鳥羽市で開催された日仏海洋学シンポジウム、メキシコにおける魚礁づくり、ベトナムでの海ごみ削減プロジェクトなど、環境保全と地域資源の活用を組み合わせた事例が紹介されました。

その後、構成団体による取り組み報告として、国土交通省四国地方整備局から、海面清掃兼油回収船「美讃」の活動について説明がありました。「美讃」は、備讃瀬戸を中心に、海面に浮遊するごみや流木、油等の回収を行っており、近年の活動実績や回収の様子などが紹介されました。

また、環境省中国四国環境局から、令和の里海づくりについて情報提供がありました。環境保全だけでなく、観光、教育、地域産業などへの活用を通じて、良好な環境の創出と地域活性化を両立させる考え方や、全国のモデル事業について説明がありました。香川県で採択されている四国水族館の宇多津アマモ場再生事業についても紹介されました。

